



浄土真宗本願寺派

龍念寺

龍念寺 寺報
龍念寺護持会
住職 青木永生
総代長 國井芳雄
2025年1月

永代経法要のご案内について

慈光照護のもと、ご門徒の皆さまにおかれましてはご清祥にてお念仏の日々をお過ごしのことと存じます。

本年も永代経法要をお勤めし、龍念寺をお支えくださった先人方に感謝の思いをもってご追悼の法要を厳修いたします。ぜひお参りいただき、先人方とともに、いま私自身も、阿弥陀如来のお救いの中にいることを共々によろこばせていただきましょう。

ご法要はどなた様でもご自由にお参りできます。ご家族、ご友人お誘いあわせのうえぜひお参りください。



「永代経法要」

日時 2025年2月23日（日）
法要 13時30～
法話 14時頃～ 1席（約50分）

ご講師 平井裕善 先生（山梨県 大月市 浄照寺）

先生は大阪府出身で、現在、築地本願寺佃島分院の主管も務められている先生です。ぜひお聴聞させていただきます。

そもそも「永代経法要」ってなに？

永代経とは、故人の命日ごとに永代にわたって読経することです。いわゆる「永代供養」といった方が、一般的かと思います。

ただこの「供養」という考え方に、他の宗派様の考え方と浄土真宗の考え方とでは決定的に違いがあり、その違いこそが、浄土真宗が有難いポイント、世間とは違った価値観をもたらしてくれる重要な点です。

一般的には、「読経する」という行為は、故人に対する追善供養の意味合いで認識されていると思います。故人が成仏できるように、故人があので安らかに過ごせるようにと願い、私が読経することにより功德を積んで、故人に対してその功德を回し向ける、ために行うのだと認識されています。この事自体は基本的な仏教の考え方であり、現代においてもお彼岸やお盆などで、お墓参りを多くの方がされるように、広く認識されている仏教の思想であり大事にしたい仏教文化だと思います。

ただ、浄土真宗のみ教えにおいては、**阿弥陀様の本願力により**故人はいのち終わって冥土の旅を始めるのではなく、即座に極楽浄土に往生させていただく、仏さまと成らせていただくというのが浄土真宗です。仏さまと成られた故人は、大いなるお慈悲のお心を起こし、私たちを護り導いてくださいます。そのようにみ教えを聞かせていただくと、故人に対する供養の考え方も変わってくると思います。このうへは

私が拝むよりも、拝まれている私だった、ということに気づいていくこと、これを浄土真宗では大事にしたいですね。



その他お知らせ

2025・令和7年の「栃木北組 念仏奉仕団（京都のご本山への参拝旅行）」の日程が決まりました。今年は6月2日～4日の2泊3日、「日本三名泉・下呂温泉館内湯めぐりの旅」が企画されています。また今年は栃木北組念仏奉仕団の第40回となる節目の年でもあります。

日程詳細や費用をお知りになりたい方はどうぞお気軽にお声がけください。また、人数に限りがありますので、参加をご希望の方はお早めにお申し付けください。

324-0206 栃木県大田原市中野内1071

TEL：0287-59-0233 FAX：0287-59-0661

Mail：aoki@ryunenji.com WEB：https://ryunenji.com

